

すゞむし

Vol. 1 No. 5

1951年6月
会数昆虫同好会

ホシミスジとコムスジ

青野考昭

前から気が付いていたことであるが、倉敷に於けるホシミスジとコムスジの分布状態がかなり面白い傾向を示しているのでここに一寸取上げて見たい。

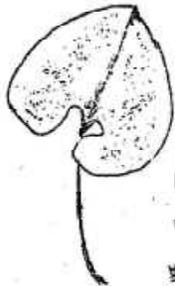
個体数から云うと途かにコムスジの方がホシミスジより多いのに昆虫採集を初めてやりかけたような人の標本箱を覗いて見るとホシミスジが大抵見つかる。コフが面白かりであって、では河原個体数も少なりともコフが初め標本箱に多く見られるのでありうかと云えば私の見るところではホシミスジは少なくとも倉敷に於ては市周辺の山地より市街地の方に多い姿を見ることからわかる通り、人家の庭や育ち徳込みの間を採れそうに、例の飛ぶ方でヒラーリ、ヒラーリと飛んでいるところから始めてネットを手にした者の手にのつりあひと、先ずコフな見たりのである。実際ホシミスジは市街地や農村部人家附近に多く、兵隊で云えば山地に相当するものでありうところの山地には見られず。従って私は本だ山地では一面も採ったことがない。

私が初めて昆虫採集用具を買った。コフで昆虫採集らしきことを初めてしたのは確か昭和17年、これと思うが或時は次々に羽色替く、物質は窮乏し、それが標本箱にも切欠に現れて私が買った年のは薄紙でガラス部分に代用としてセロファンを使用した筈に違ふなものであった。それで折角採った標本も虫に食われる始末でどうもいふ人力でどうしたまのかと思案してあげく玉海紙に蝶紙で封筒で密封して置いたものかク本館保存されていたがそれを見て驚嘆を覚えたことは、私が初めて自宅裏で採った *Neptis* の蝶はコムスジで採ったホシミスジである。これがその絵から判りかに命ったことだった。それからしばらく後、現在こうして下りないことを尋ねているが当時初めてホシミスジをネットにし取ったことが思い出されて懐しい。

コムスジの方も又面白いのでこれは山地に多くて市街地で確実に見たり採つて取りし記憶は他の人はいざ知らず私自身は更に愛にあり、うまいこと出来たものである。そして暮れ日なご一軒山地へ採集に行つて見ると必

が本社の収入に充てられたりする等を見計らわなければならないことには注意を促して下さるべきであらう。

さてこの両者の分取上の格差を是正する事は、その分取の順序に大抵の関係して下さるべきであらうが、そのことはすでにお話しした通りである。従って結論めかたをのとして未だホシミスジを採つてなす少々の苦味は、人の老練心からつけたいことは、ホシミスジを採りたいはう流してムハ行きたまうなということなのです。



カンアオイを食べる幼虫

白神昭

今春のギフナガサ採集行で、真実でギフナガサと思つて採集した一幼虫を飼育した。アゲハチョウ科の幼虫はさむけの尾リ等とまゝと頭部を後から悪臭を放つ脚節を出すか、この幼虫は全く成さなりので不思議に思つて予ととにある参考書で

調べて見たが、形態は少し色の変なということを除くと非常に似ていて、てっきりギフナガサの幼虫だと思つて飼育した。カンアオイがむなまの葉でカタバノアオイを食べたがカンアオイと同様に良く食します。ジャレーで飼育していましたが蛹になつてしまつた。カンアオイとカタバノアオイの葉を細い白い糸で纏つて蛹を作つて居るのだ。オアオカギフナガサの幼虫もこの人形蛹を作るのにならと思つて蛹を調べて見るとギフナガサの蛹とは少しもつちかぬが科がヒトリが科らしい蛹であるがオアオカギフナガサと見てもシタヒリ *Spilosoma nebulosoma* Butler が孵化して来た(6月12日)。

日本昆蟲図鑑で本種の食草を調べて見たがそれに依りては全然承れてなかつた。此か考えられた。たゞちかく本種の食草は本記録だと思われた。というものはカンアオイ、カタバノアオイを食べる幼虫がギフナガサの他にありと云うことは未だ聞いたことがなかつたからである。(たゞともギフナガサはカタバノアオイは食べぬらしいが。又ヒトリが科がカンアオイを食べたことはないのであるが。) カンアオイを食べる幼虫がギフナガサだけではないことを明記しておく。



お願い

1. 会費は同僚の方々を未納の方は直ちに一ヶ月5円の相当額を会計係の友野尼氏に他方役員の方にもお願い下さい。7月以降の会費主なるべく早く出して下さい。

2. 系録はなるべく早く届けて下さい。出来れば毎月1篇は出して下さい。

ウラジロミ ドリを採る

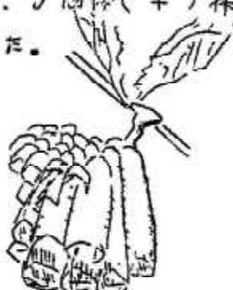


「オモシバミ」第3号の
 おとしバミに玄關代がウ
 ラジロミドリシジミに似
 た疑問種にアヒて喜りて
 おられましたが、私も実
 はこんな平地で山の残い
 倉敷附近に居るのだろ
 うかと疑問に思っていたの
 ですが、その後倉敷西小学
 理科教室にあった山川先生採く黒田
) / 谷の標本を檢してある倉敷の本
 種が確認されているのを知り、本年
 6月10日黒田に採集に行った際を
 附けていましたところ、頭上のクヌ
 ザの葉上にかうひらと稚未静止した
 本種を見まして一細竹盞にしました
 。 完全新鮮な個体で合でした。
 これで白神代の採った本種らしきも
 のと一緒に数えるとすれば、倉敷で
 4個体が採れたことにはなります。

追記

（小野 洋）

後、6月20日、同所に
 と深谷先生、音野・小野・白神等に
 依って、3個体（♀）採集2個体目
 撃された。



今年のウスイロ オナガシジミ

昨年頃から倉敷で発見され
 問題となっている本種はいまだ倉
 敷では数個体しか採れていない。

本年に入ってから6月10日、黒田に
 採集に行った際、本種1個体を採
 集しました。非常に小さなヤ
 ーで新鮮な完全品でした。6月10
 日と云えばいまだやっせくアカシ
 ジミはもう出盛りだがウラナミ
 アカシジミ、ミズイロオナガシジ
 ミ、オオミドリシジミなどが出始
 した頃、又は出盛りの頃であります
 。 今までミズイロオナガシジミ
 の出現期よりヤ一本種の出現期を
 遅いと思っていた私の考は違っ
 ていた様です。（小野 洋）

クロツバメシジ ミの新産地

1 6月27日午後、倉敷市阿
 知町の自宅でクロツバメシジミを
 採集しました。最初ヤマトシジ
 ミと思っていましたか白神道人に
 依ってクロツバメシジミと判りま
 した。所知町の郡守町中に居るの
 は不思議です。（若林二郎）

2 7月1日、

倉敷市旭町自宅でク
 ロツバメノ不完全個体を



4(36)

得ましたのでお知らせします。

（白神 昭）

フタツメホソヒゲ ナガカミキリ

別名マハズハナリとも云うて

各地に少くなりですが、今般では
白神氏が採られているもののはかあ
まり聞かないので報告してきます

1951年6月10日 清音村黒田 / 早
筆者採

1951年6月10日 清音村黒田 / 今
青野氏採

黒田附近ではかなり発生している
ものと思われる。(小野 洋)

鶴形山のカミキリ数種

1. キマダラカミキリ 燈火に
飛来せし / 早を採集する。VI-28,
1951. 尚羽島山でも / 今を採集す
れた。VI-28, 1951

2. ミラホミカミキリ 筆者採
集。東山学の上徒に依って採集す
れたらしいが、めぐりめぐって逐
に私の手に入った。VI-10, 1951.

3. ルリカミキリ よく垣根に
用いられる灌木で木の先の部分の
葉の赤くなる木で相当発見すれた
食害してゐるものが何をしているの
かわからない。羽島山でも同種
は所で発見された。

4. VI-17/1951. 融角の長 / 不
明種を採集してゐる。

5. その他、アトヒニマルゲン
ミキリ、ウツコウカミキリ等微小種
を採集してゐる。(白神 昭)

鶴形山のカミキリ

ハナダカカメムシ 鶴形山

本宿寺^{2頭}集地にママニコジン? にリ
た本種^{2頭}を採集しました。V-30, 1951.
同所と同じくヤマニコジンの花上に
1頭採集す。VI-1, 1951

2. ヒメケマバネカメムシは先
に私が本誌上に発表しましたが、尾
崎正彦君の標本を換えました。筆
者と同じように燈火に飛来したと認
めである。

3. オオキンカメムシ VI-73, 19
51. ノスゴの葉上にて1頭を採集し
た。この両種のカメムシを手に
して雀躍りした。(白神 昭)

編集後記

緑の森に虫の美しい音が活潑に
動いています。採集健

察の絶好の季節です。

皆様の手で本誌も

一人ひとりに派に育

つて感謝しています。



すゞむし (Vol. I, No. 6)

印刷 昭和26年6月20日

発行 昭和26年6月30日

編集者 白神 昭

印刷者 白神・反野良一

発行所 倉敷西小学校理科教室

倉敷昆虫同好会

(非売品)

岡山県産虫類採集品目録

2 野野屋

- Genus *Monomorium* Mayr, 1855
Monomorium (*Monomorium*) *floricola* Jerdon, 1851
 ノロヒメアリ 詩口郡大島村
- Genus *Pristomyrmex* Mayr, 1866
Pristomyrmex (*Pristomyrmex*) *rungens* Mayr, 1866
 アミメアリ 倉敷市, 郡産郡管生村, 上房郡上水田村
- Genus *Leptothorax* Mayr, 1855
Leptothorax (*Leptothorax*) *spiniosior* Froel, 1901
 ハリアトムネホリアリ, 詩口郡大島村
- Genus *Tetramorium* Mayr, 1855
Tetramorium *caespitum* subsp. *jacoti* Wheeler, 1923
 トビイロシワアリ 倉敷市, 詩口郡奇島町, 詩口郡大島村
- Subfamily *Schlichoderinae* Forel, 1878 (ルリアリ) 亜科
 Genus *Paratrechina* Motschulsky, 1863
Paratrechina (*Nylanderia*) *flavipes* F. Smith, 1874
 アメイロアリ 倉敷市, 津山市, 苫田郡泉山, 英田郡大塚町
- Paratrechina* (*Nylanderia*) *sakurai* (Jto), 1914
 サクサアリ 上房郡上水田村
- Subfamily *Formicinae* Lepelletier 7271 亜科
 Genus *Lasius* Fabricius, 1804
Lasius (*Glendrolasius*) *fuliginosus* (Katreille).
 ノロノカアリ 苫田郡泉山
- Lasius* (*Glendrolasius*) *spatheus* (Wheeler)
 ノカアリモドキ 倉敷市, 津山市, 英田郡大塚町
- Lasius* (*Lasius*) *marginatus* Olivier var. *japonicus*
 ミヤマトビイロカアリ, 苫田郡泉山, 阿智郡野馳村
 Santschi, 1941
 Motschulsky 1866
- Genus *Formica* Linnaeus, 1758
Formica (*Serviformica*) *fusca* subsp. *fusca* var. *japonica*
 ノロヤマアリ 詩口郡大島村, 苫田郡泉山
- Genus *Camponotus* Mayr 1861
Camponotus (*Camponotus*) *japonica* Mayr, 1866